

過剰診断と過剰診断の不利益

～不利益の経験を想像することの大切さ～

過剰診断とは？

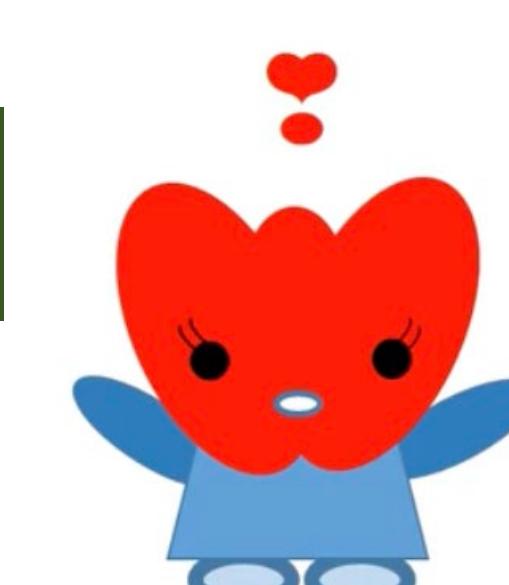
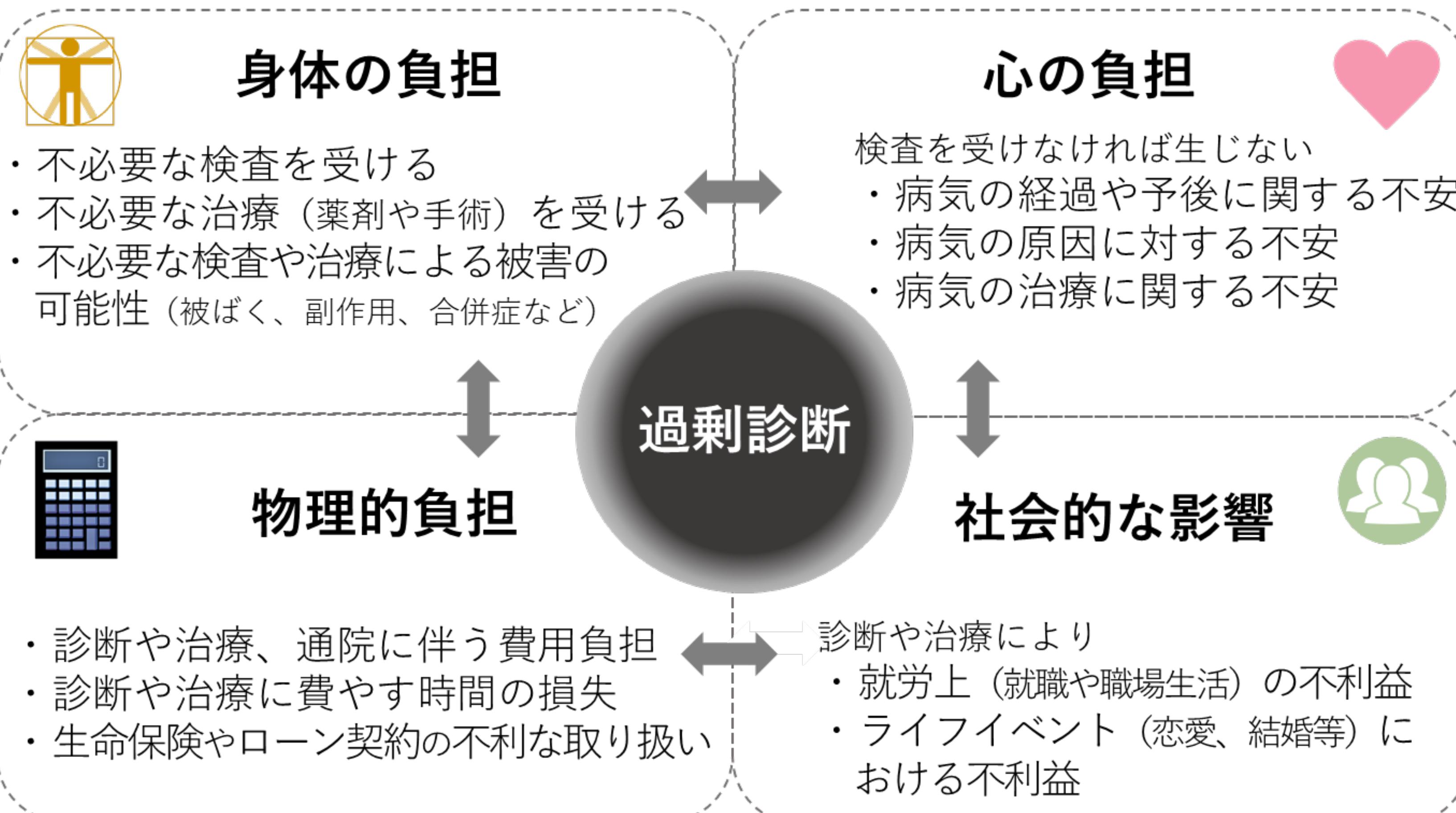


- ・過剰診断とは一生症状を出さない、無害の病気を診断することです。過剰診断された病気を治療することを過剰治療と言います。
- ・命をおびやかすイメージが強い「がん」であっても過剰診断は起こります。がんの過剰診断は、特に過剰治療を引き起こしやすいとされています。
- ・過剰診断を生じやすいがんの代表が甲状腺がん（甲状腺乳頭がん）です。その他に前立腺がん、乳がんの一部、悪性黒色腫などが知られています。
- ・がんの診断のための検査や医療が発達したことと、症状がでる前の検診（スクリーニング）の拡大によって、がんの過剰診断は全世界的に増加傾向にあります。



- ① がんではない病気をがんと診断すること（誤診）とは違います。
- ② がんの一歩手前のような病変（前がん病変）をがんと診断することではありません。
- ③ 手術をして転移や浸潤があったから、過剰診断ではなかったとは言えません。
- ④ 病理診断によって過剰診断かどうかは分かりません。

過剰診断が起こるとどんな不利益（害）が引き起こされるの？



過剰診断の不利益をできるだけ具体的に分かってもらいたいので、ものがたりで説明するよ。

症状の出ない小さな甲状腺がんをもっている2人です
Aさんは風邪で検査をうけられませんでした
Bさんは学校で検査をうけました



B判定の通知がきました。細胞診をした方がいいと言われ細胞診を受けました

その後も甲状腺検査の案内がきましたが、他県の大学に進学し検査を受けませんでした

甲状腺がんはその後も症状を出さず、Aさんは甲状腺がんを持っていることを意識せずに、就職、結婚、出産とその後の人生を普通に過ごしました。

細胞診の結果、甲状腺がんと診断されました。小さいので経過観察もできると説明されました。過剰診断の話は説明されませんでした。



大学受験を控えていましたが、体が大事と手術を受けました。福島で暮らす方がいいと考え進路を変更しました。

放射線のせいなのかと悩みましたが怖くて誰にも聞けませんでした。

その後も長い間、術後の経過観察のために通院し、いつも転移や再発のことが頭にありました。結婚し出産しましたが、甲状腺がんが子どもに遺伝するのではないかと心配しています。

検査を受けたか、受けなかつたかによって、その後の人生が大きく変わってしまうのです。Bさんも、検査を受けさえしなければ、その後の人生で、甲状腺がんに関するマイナスの経験をしなかつたということです。このような、人生がかわってしまうような理不尽が生じるのが過剰診断です。



過剰診断はいったん発生すると、どんどん広がってしまいます

過剰診断を認めない医療者側の態度

早く見つかったよ
かったですね。



過剰診断

過剰治療

手術したら過剰診断
ではありませんでしたよ。



過剰診断の害を引き受ける対象者や患者さん

がん検診
の推進



もし経過観察したら手遅れ
になるの？ 皆さんも勧めなきや？

がんは手術したけど——就職は？ 結婚・出産は？ 子どもに
遺伝するの？



- ・いったん過剰診断がおこるとそれを引き起こした検診（スクリーニング）は、不利益が大きいはずなのに止まらずに、逆にどんどん広がっていくことが知られています。これをポピュラリティーパラドックス（人気に関する矛盾）と呼ばれています。この現象が生じると、医療者は感謝されたり利益が生じたりします。一方で過剰診断の不利益を受けるのは患者さんのみです。

